

# 中期目標原案・中期計画案一覧表

(法人番号09) (大学名)岩手大学

中期目標原案	中期計画案
<p><b>(前文)大学の基本的な目標</b></p> <p>岩手大学は、地域における知の府としての役割を果たす教育研究の場、すなわち、岩手の風土に根ざした“イーハトーブの学び舎”として、教育、研究、社会貢献活動を推進する。教育については質を保証する教育プログラムの展開、研究については本学の特色を生かした地域課題研究及び独創的な研究の推進、社会貢献については教育機関・自治体・産業界などとの連携強化を図る。これらの取り組みを通して、国際的な視野を持ち、幅広い教養と深い専門性を備えた多様な人材、高度専門職業人及び研究者の育成を目指すとともに、持続可能な共生社会の形成に寄与することを使命とする。</p>	
<p><b>中期目標の期間及び教育研究組織</b></p> <p>1 <b>中期目標の期間</b> 平成22年4月1日～平成28年3月31日</p> <p>2 <b>教育研究組織</b> この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科を置く。</p>	
<p><b>大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b></p> <p>1 <b>教育に関する目標</b></p> <p>(1) <b>教育内容及び教育の成果等に関する目標</b></p> <p>幅広い教養と深い専門性を備え、持続可能な共生社会の形成に寄与する人材を育成するために、学士課程教育を充実する。</p>	<p><b>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p>1 <b>教育に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>(1) <b>教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>学士課程への円滑な導入に関する諸取組を連携させて、初年次教育を充実する。</p> <p>E S D (持続発展教育)を通して全学共通教育と専門教育が連携し、「学士力」の育成を図る。</p> <p>人材養成目的に応じたコア・カリキュラムを提示し、基礎教育と連携した専門教育プログラムの充実を図る。</p>

卒業生の質を保証するために、「学習成果」を明確にし、客観的な成績評価を行う。

社会のニーズを踏まえた人材養成目的に沿って修士課程、博士課程を充実する。

国際的視野をもった人材育成のため教育の国際化を推進する。

## (2) 教育の実施体制等に関する目標

教育の質の保証に資するため、教育実施体制を見直し整備する。

情報通信技術を積極的に活用して、教育内容・方法の改善を図る。

## (3) 学生への支援に関する目標

多様な学生のニーズに応える学生支援を推進する。

正課外活動や学生生活を通じて豊かな人間性や協調性、社会性等が養われる環境の整備を進める。

学士に求められる学習成果を明確にし、「学位授与の方針」を定める。

学生自らが学びをマネジメントする仕組みを導入し、学生の自発的な学びを促進する。

成績評価ガイドラインに基づく客観的な成績評価を行い、きめ細かい履修指導を行う。

秋季入学を実施する研究科を増やし、留学生・社会人を積極的に受け入れる。

研究科または専攻毎に課程修了者が修得すべき教育内容と達成目標を定め、単位制度の実質化を図る。

語学力習得の支援体制を強化して、語学教育の充実を図る。

I C T（情報通信技術）等を活用した教育プログラムにより国際的視野の育成を図る。

## (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

人材育成上の目的と学習成果の観点から学士課程、大学院課程の教育プログラムを見直し整備する。

「入学者受入の方針」を見直した上で、全学的な入学者選抜体制を整備する。

学部を越えた教育プログラムを導入して、学生の幅広い学びを促進する。

I C T（情報通信技術）をはじめとした教育環境の整備に取り組む。

授業改善のためのP D C Aサイクルを構築して、教育内容・方法の改善を行い、教員の教育力の向上を図る。

## (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

学生への経済的支援方策の充実を図る。

入学から卒業までの学生情報を総合的に活用して、きめ細かい学生支援を行う。

修学上、特別な支援を必要とする学生に対する支援をネットワーク化して充実を図る。

学生寮の居住環境を改善し、寮生活の充実を図る。

学外諸団体と連携して、学生のボランティア活動を促進する。

学生団体等と連携して、大学の事業や行事に学生の参加を促進する。

## 2 研究に関する目標

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

特色ある研究や水準の高い研究を重点的に推進する。

### (2) 研究実施体制等に関する目標

戦略的な資源活用を通じて、研究環境を整える。

## 3 その他の目標

### (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

知の府として、産学官における組織的な連携をさらに深めて、地域の自立と活性化に先導的に取り組む。

学術文化の拠点として、次代の地域を担う人材の育成に取り組む。

岩手県内をはじめとする他大学との教育連携を推進する。

北東北国立3大学の連携を推進する。

## 2 研究に関する目標を達成するための措置

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

実績と高い水準を有する卓越したプロジェクト型研究等の発展・形成を支援する方策を整備し、重点的に推進する。

産業、学術文化、教育に係わる地域課題研究や特色ある研究に積極的に取り組み、成果の社会還元を進める。

### (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

競争的な研究経費支援制度により、今後の発展が期待される萌芽的な研究や持続社会形成に資する研究を育成・推進する。

若手研究者への研究費支援や女性研究者への研究遂行支援等を通じて、研究環境を整備する。

技術系職員による教育・研究支援体制の改善・整備を行うとともに、教員の教育研究アクティビティの向上に資する方策を整える。

## 3 その他の目標を達成するための措置

### (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

産学官の人及び組織のネットワークと連携し、次代の地域づくりに取り組む。

「北東・地域大学コンソーシアム(NERUC)」の構成校である、帯広畜産大学・弘前大学・山形大学及び岩手県内5大学との連携により、地域の知的財産の広域活用を図る。

大学の知的資産を活用し、社会人への高度な実践教育を推進する。

次代の地域を担う児童・生徒が幅広い素養を育むため、関係機関と連携し、科学・文化・スポーツ・芸術などに関する事業の充実を図る。

いわて高等教育コンソーシアムの代表大学として、県内5大学の教育環境の整備や教育力の向上を図る。

獣医学に係る専門教育プログラムの他大学との共同実施について検討を進める。

北東北国立3大学は連携して、地域の諸課題を視野に入れつつ、教育・研究・社会貢献を行う。

**(2) 国際化に関する目標**

海外の大学との教育交流及び研究交流を推進する。

**(3) 附属学校に関する目標**

教員養成に関わる教育研究の支援機能を強化するとともに、管理運営の在り方を見直す。

**(2) 国際化に関する目標を達成するための措置**

国際戦略を検討する組織を設置し、海外との教育交流及び研究交流を推進する。

留学生宿舍を新たに確保し、交流協定校との短期交換留学等の受け入れを拡大する。

**(3) 附属学校に関する目標を達成するための措置**

教育学部・教員養成機構と連携して、教員養成に関わる教育・研究への協力・支援を拡充する。

教育委員会との連携のもと、地域のモデル校として、地域の教員の資質・能力の向上、地域の学力の向上、教育活動の一層の推進に寄与する。

研究協力校、教育実習校としての附属学校の機能を勘案し、入学定員枠の適正化を含めて、管理運営機能を強化する。

**業務運営の改善及び効率化に関する目標**

**1 組織運営の改善に関する目標**

社会動向やニーズを視野に教育研究組織の再編を行う。

効率的な大学運営に資するため、人的資源を有効に活用した組織運営の改善を行う。

**2 事務等の効率化・合理化に関する目標**

本学の教育研究目標を実現するための、機能的・効率的な事務体制を整備する。

**業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置**

**1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置**

学長のリーダーシップの下、柔軟性のある教育研究組織に再編する。

組織の活性化・重点化に柔軟に対応するために、新たな人的支援制度を構築する。

学長によるトップマネジメントを一層推進するため、全学的な意思決定プロセス等を再構築する。

人事評価制度の適切な活用を図り、インセンティブを高めることにより、教職員の業務遂行能力の向上に資する。

ワーク・ライフ・バランスに配慮し、男女、様々な年代層が働きやすい環境を整備する。

**2 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置**

迅速な意思決定に資するよう事務組織の機能・編成を再構築する。

企画力やコミュニケーション能力等、大学職員に必要とされる能力を備えた人材の養成と登用を進める。

情報関連体制の見直しを行い、ICT（情報通信技術）を利用した業務効率化、支援体制を充実・強化する。

## 財務内容の改善に関する目標

### 1 外部資金、その他の自己収入の増加に関する目標

本学の教育研究機能を高めるため、外部資金の積極的獲得に努める。

### 2 経費の抑制に関する目標

#### (1) 人件費の削減

「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

本学の教育研究等の目標達成のために必要な人員の確保と効率性を勘案しつつ、適正な人員管理を行い、人件費の削減に努める。

#### (2) 省エネ・省資源の促進による経費の削減

省エネ・省資源意識を涵養し、経費の抑制に努める。

### 3 資産の運用管理の改善に関する目標

資産の有効利用を図る。

## 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

### 1 評価の充実に関する目標

評価結果に基づき、教育研究活動の一層の改善を図る。

## 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 外部資金、その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

外部資金の積極的獲得に資するため、競争的研究資金等についての情報を収集し、有効な具体策を立案、実施する。

自己収入源確立のための体制を整備する。

### 2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

本学の教育研究等の目標達成のために必要な人員の確保と効率性を勘案しつつ、人件費管理計画を策定し、人件費の削減に努める。

新たな削減方策の検討体制を整備するとともに、経費の節減を図る。

環境マネジメントシステムによる省エネ・省資源の取組を強化し、CO<sub>2</sub>排出量を削減する。

### 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

職員宿舍等資産の有効活用具体策を立案し、実施する。

## 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 評価の充実に関する目標を達成するための措置

評価活動の効率化のため、分散している既存システムの見直しと連携を図ることにより、重複入力の解消と省力化を進める。

自己点検や認証評価機関等の評価結果を教育研究・運営活動に反映させるためのシステムを強化・充実する。

<p><b>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標</b></p> <p>大学の教育研究の活動状況について、戦略的に情報発信を展開する。</p>	<p><b>2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>教育研究活動、大学運営、大学改革の状況などの情報を、広く積極的に提供する。</p>
<p><b>その他業務運営に関する重要目標</b></p> <p><b>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</b></p> <p>計画的な施設整備を推進する。</p> <p><b>2 安全管理に関する目標</b></p> <p>教育研究環境の向上のため、安全管理体制の充実に努める。</p> <p><b>3 法令遵守に関する目標</b></p> <p>法令に基づく適正な法人運営を推進する。</p> <p>情報セキュリティポリシーに基づく運用体制により、情報セキュリティを充実・強化する。</p>	<p><b>その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</b></p> <p><b>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>安全・安心をコンセプトとした施設整備基本計画を策定し、学生や市民に愛されるキャンパス整備を計画的に進める。</p> <p><b>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>安全衛生業務の管理を集約化することにより、機動的、効率的な体制を構築する。</p> <p>地域と連携し、防災計画を推進する。</p> <p><b>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>契約手続きの適正化及び服務規律の保持の観点から、管理・監査体制の整備充実と意識の向上を図る。</p> <p>情報セキュリティを強化するための情報基盤を整備・拡充する。</p> <p>情報セキュリティマネジメントシステムを継続的に改善し、セキュリティ意識の学内への浸透を図る。</p>
	<p><b>予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画</b> 別紙参照</p> <p><b>短期借入金の限度額</b></p> <p><b>1 短期借入金の限度額</b> 億円</p> <p><b>2 想定される理由</b></p>

## 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

## 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

### 1 重要な財産を譲渡する計画

緑ヶ丘宿舍の土地（岩手県盛岡市高松三丁目19番6号）を譲渡する。

### 2 重要な財産を担保に供する計画

該当なし

## 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上、環境整備及び組織運営の改善に充てる。

## その他

### 1 施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額（百万円）	財源
学生寮整備事業等	総額	長期借入金（900）
小規模改修	1,152	国立大学財務・経営センター施設費 交付金（252）

（注1）施設・設備の内容、金額については見込みであり、中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽度合等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。

（注2）小規模改修について平成22年度以降は平成21年度同額として試算している。  
なお、各事業年度の施設整備費補助金、国立大学財務・経営センター施設費交付金、長期借入金については、事業の進展等により所要額の変動が予想されるため、具体的な額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。

### 2 人事に関する計画

- （1）組織の活性化・重点化に柔軟に対応するために、新たな人的支援制度を構築する。
- （2）人事評価制度の適切な活用を図り、インセンティブを高めることにより、教職員の業務遂行能力の向上に資する。
- （3）ワーク・ライフ・バランスに配慮し、男女、様々な年代層が働きやすい環境を整備する
- （4）企画力やコミュニケーション能力等、大学職員に必要とされる能力を備えた人材の養成と登用を進める。

(参考) 中期目標期間中の人件費総額見込み

百万円

### 3 中期目標期間を超える債務負担

(長期借入金)

(単位：百万円)

年度 財源	H22	H23	H24	H25	H26	H27	中期目標 期間小計	次期以降 償還額	総債務 償還額
長期借入金 償還金 (民間金融 機関)	0	3	39	40	41	42	165	735	900

(注) 金額については、見込みであり、業務の実施状況等により変更されることもある。

### 4 積立金の使途

前中期目標期間繰越積立金については、次の事業の財源に充てる。

人文社会科学部3号館整備費の一部

その他教育、研究に係る業務及びその附帯業務



別表（学部、研究科等）

学部	人文社会科学部 教育学部 工学部 農学部
研究科	人文社会科学研究科 教育学研究科 工学研究科 農学研究科 連合農学研究科 参加大学 弘前大学 山形大学 帯広畜産大学 岐阜大学大学院連合獣医学研究科（参加校）

別表（収容定員）

平成 22 年度	人文社会科学部	880人	
	教育学部	1,000人	
	工学部	1,700人	
	農学部	910人	（うち獣医師養成に係る分野 180人）
	人文社会科学研究科	32人	（うち修士課程 32人）
	教育学研究科	64人	（うち修士課程 64人）
	工学研究科	394人	（うち博士前期課程 330人 博士後期課程 64人）
	農学研究科	134人	（うち修士課程 134人）
	連合農学研究科	88人	（うち博士課程 88人）
平成 23 年度	人文社会科学部	880人	
	教育学部	1,000人	
	工学部	1,670人	
	農学部	910人	（うち獣医師養成に係る分野 180人）
	人文社会科学研究科	32人	（うち修士課程 32人）
	教育学研究科	64人	（うち修士課程 64人）
	工学研究科	390人	（うち博士前期課程 330人 博士後期課程 60人）
	農学研究科	134人	（うち修士課程 134人）
	連合農学研究科	96人	（うち博士課程 96人）
平成 24 年度	人文社会科学部	880人	
	教育学部	1,000人	
	工学部	1,640人	
	農学部	910人	（うち獣医師養成に係る分野 180人）
	人文社会科学研究科	32人	（うち修士課程 32人）
	教育学研究科	64人	（うち修士課程 64人）
	工学研究科	390人	（うち博士前期課程 330人 博士後期課程 60人）
	農学研究科	134人	（うち修士課程 134人）
	連合農学研究科	96人	（うち博士課程 96人）
平成 25 年度	人文社会科学部	880人	
	教育学部	1,000人	
	工学部	1,640人	
	農学部	910人	（うち獣医師養成に係る分野 180人）

	人文社会科学研究科	32人	(うち修士課程	32人)
	教育学研究科	64人	(うち修士課程	64人)
	工学研究科	390人	(うち博士前期課程	330人)
			博士後期課程	60人)
	農学研究科	134人	(うち修士課程	134人)
	連合農学研究科	96人	(うち博士課程	96人)
平成 26 年度	人文社会科学部	880人		
	教育学部	1,000人		
	工学部	1,640人		
	農学部	910人	(うち獣医師養成に係る分野	180人)
	人文社会科学研究科	32人	(うち修士課程	32人)
	教育学研究科	64人	(うち修士課程	64人)
	工学研究科	390人	(うち博士前期課程	330人)
			博士後期課程	60人)
	農学研究科	134人	(うち修士課程	134人)
	連合農学研究科	96人	(うち博士課程	96人)
平成 27 年度	人文社会科学部	880人		
	教育学部	1,000人		
	工学部	1,640人		
	農学部	910人	(うち獣医師養成に係る分野	180人)
	人文社会科学研究科	32人	(うち修士課程	32人)
	教育学研究科	64人	(うち修士課程	64人)
	工学研究科	390人	(うち博士前期課程	330人)
			博士後期課程	60人)
	農学研究科	134人	(うち修士課程	134人)
	連合農学研究科	96人	(うち博士課程	96人)